

収入増や活躍の場の拡大、能力向上などを目的に副業・兼業をする人が増えています。実践している方に、本業と両立させるコツやメリットをインタビューします。



人生を広げる Side Business



© 麦 - stock.adobe.com

以前の副業
現在の
本業

オフィスリングシステム株式会社 GP(グローバル・プラクティショナー)事業部

「GPエキスパート」として、海外進出・展開を図る企業をコンサルティング支援する。その活動が評価され、スポットコンサルタント仲介会社ミーミル主催の「EXPERT AWARD 2023」にノミネートされた(GP事業部の月次Meetingにて)



以前の
本業

味の素株式会社

アミノサイエンス事業の各分野のBtoB事業に、販売、マーケティング、開発、事業管理、サプライチェーンマネジメントなどに従事。通算13年の駐在で海外マネジメント経験も豊富(ブラジル駐在時、苦楽を共にした当時の同僚たちと)



第31回

副業もどきで始めた仕事に セカンドライフの本業に

ドイツ、ブラジル、ベルギー
海外駐在13年の経験を活かす

現在63歳の富岡泰史さんは、人材紹介サービスを行うオフィスリングシステム株式会社のGP(グローバル・プラクティショナー)事業部の「GPエキスパート」として、海外進出をめざす企業が直面する困り事や問題の解決を支援するコンサルタントをしています。

GP事業部には、同様に大企業でグローバルなビジネス経験を重ねた60歳以上の人材が20人ほど所属。フリーになった人、本業の会社で嘱託として働きたい人、別会社に移ったうえでの人とさまざまですが、業務委託契約という形で自分たちの知見をコンサルティングに活かしています。

お話を伺ったのは



富岡泰史さん

とみおか・やすし / 1986年、新卒で味の素株式会社に入社、アミノ酸を原料とした食品系、医療系、化粧品系のBtoB事業に従事。2020年に早期退社し、水産系、外食系の会社を経て現在、オフィスリングシステム株式会社のコンサルタントスタッフとして活動

富岡さんがこの仕事を本業としたのは今年の6月から。それまでの5年ほどは副業もどきの位置づけで取り組んでいました。

富岡さんが1986年に新卒で入社した味の素株式会社は、アミノ酸を食品のほか医療系や化粧品、半導体などに広く活用するアミノサイエンス事業を展開しており、彼は一貫してそのBtoBの事業に携わり続けてきました。30年以上の経歴のなかで、留学を含めた海外駐在は通算13年。ドイツでは現地法人「欧州味の素販売」のマネジメント、ブラジルでは新工場の設立・運営を手がけ、ベルギーでは医薬原料受託開発製造の会社「味の素オムニケム」を同国の人と共同で経営しました。

副業もどきを始めたのは、定

両立のポイント

✓ 1 セカンドライフへの助走期間と捉える

副業の入り口はセカンドライフのための助走期間として、勉強会や交流会に参加しているような感覚の気楽なものにしたほうがいい

✓ 2 やっていて面白いと感じられる

知的好奇心をかき立てられる面があり、それを面白いと感じられる仕事を副業に選ぶことが大事

✓ 3 自分の経験だけに頼らない

自分のこれまでの経験だけに頼るのではなく、ビジネススクールなどで自分の経験を改めて理論化・体系化する学びなおしを行うことも重要

年を意識するようになった2019年、58歳の時。会社のルールで嘱託社員として定年後も働くことができましたが、「先輩方の姿を見てみると、あまり楽しそうに思えなかった」というのがきっかけでした。

「この先は転職か独立をして、今までの知見を活かして中小企業を支援したいと考えるようになったのです」

そんな時にオフィスリングシステムの弓山桂司社長と出会い、GPエキスパートの仕事を副業的に始めます。

弓山社長は、「大企業で海外事業に精通した人が定年で退くのはもったいない」と考え、自社内にGP事業部をつくったのです。

「40代から副業的な活動を始めたほうがいい」

副業もどきの活動は土日や隙間時間を使い、企業訪問には有給休暇を取るなどして対応していました。

その後、2020年に早期退職。副業もどきを続けながら、

味の素の紹介で勤めた水産系と外食系の会社に都合4年在籍後、今年6月からフリーとなったGPエキスパートの仕事を本業にしたという流れです。

この間、「コンサルティングにおいて、自分の経験だけで語るのとは良くない」と考え、社会人向けのグロービス経営大学院でマーケティングやロジカルシンキングを選択、英語力も鈍らせないためにと英語プログラムを受講しました。

副業的にやっていたことをセカンドライフで本業とした富岡さんですが、自身の来し方を振り返り、一つだけ後悔があると言います。

「私の場合、副業もどきだったから変に力まず始められたのですが、惜しむらくは私が40代のときに副業ができる世の中になっていて、そのころからやっておけたらよかったです。今は終身雇用一辺倒の世の中ではないわけですから、後輩の人たちには『45歳ぐらいから副業的な活動を始めたほうがいい』とアドバイスしたいですね」